

田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2021年11月10日	天候	曇り	活動時間	9:30～12:30
作業者	舟木 匡志、山下 洋平			報告者	山下洋平
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<p>【作業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍神池の写真撮影 ・生物調査 ・外来種の駆除 ・水草や水生昆虫の救出(かいぼり実施に向けて) 					
<p>【生物調査の詳細】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池の生物の生息・生育状況の調査を実施した。ビオトープ創出時に導入した生物も含めて確認をおこなっている。 ・クロスジギンヤンマの幼虫を5個体確認した。水草の多い止水域を好む種である。外から飛来した個体が産卵したものと考えられる。冬季にかいぼりを行うため、調査後は放流せずバケツに入れ境内で飼養している。 ・トンボ科の幼虫を9個体(若齢7・終齢2)確認した。終齢個体は背棘などの特徴からシオカラトンボと同定された。若齢幼虫は種の特定には至っていない。 ・メダカについて 前回同様、白メダカや体色の黒いメダカなどの品種改良された個体(品種メダカ)を複数確認した。調査中にメダカの稚魚が複数確認されたことから、池内での東京都産のメダカと品種メダカとの交雑が危惧される。そのため、冬期にかいぼりを行い、メダカの駆除と有機物の除去を行う予定である。 ・池内でコセアカアメンボを複数確認した。 ・池内でホルバートケシカタビロアメンボが水面を移動しているのを確認した。体長1.5mmととても小さいため、発見するのが大変難しい。 ・サカマキガイを流れ込みの岩盤で確認したため、都度、駆除を行った。過年度から駆除を続けているため、個体数は減少傾向にある。 ・水草(ヒルムシロ属sp.)は池の中央で多く確認された。植物体には花と殖芽が確認できた。12月のかいぼりと天日干し(1ヶ月程度)の際に枯れてしまうのを防ぐため、可能な限りバケツに回収し保管している。 ・浅瀬にて絶滅危惧種シャジクモを数株確認した(東京都レッドリスト2020:絶滅危惧II類(北多摩))。水温も低下しており、8月の調査時よりも減少していた。 ・池の周縁部ではミゾソバが繁茂しており、開花も確認された。 ・池の外縁部にメリケンガヤツリを数株確認した。導入した土に種子が混ざっていたと思われる。都度、引き抜きを行った。重点対策外来種(生態系被害防止外来種リスト(環境省))に選定されている。タマガヤツリによく似ているが、花穂の鱗片がタマガヤツリよりも長い。 ・池内に生えていた外来種(アメリカタカサブロウ)の除去を行った。 					
<p>【その他】</p> <p>池の底泥を掬ったところヘドロが多く堆積しており、水の透明度も前回調査よりも低下していた。池が造られて3年が経過し、池内の水草や落葉等が分解されヘドロが堆積したと考えられる。ヘドロには多くの有機物が含まれており、濁りの発生原因にもなる。そのため、12月にかいぼりと天日干しを行い、池内の環境改善を図る。今回の調査で捕獲した生きもの(ヤゴ、ヒメタニシ等)はバケツに入れ境内で保管している。かいぼり復水後に放流する予定である。</p>					



No. 1

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子



No. 2

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子。



No. 3

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子



No. 4

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。



No. 5

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。



No. 6

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。



No. 7

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・調査中の様子。



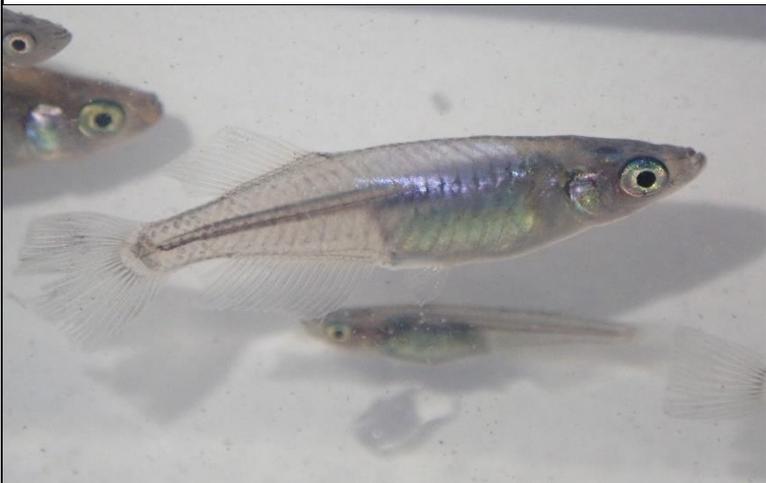
No. 8

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

確認されたメダカ。ミナミメダカに近い体色をしている。



No. 9

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

確認されたメダカ。体の一部が光っている。



No. 10

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

確認されたメダカ。若齢個体であるため、池内で繁殖したものと思われる。



No. 11

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・昨年度に確認したホルバートケシカタビロアメンボを発見。とても小さく、確認が難しかった。体長1.5mm



No. 12

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・池内で確認したコセアカアメンボ。水面に落ちた幼虫を食べている。



No. 13

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・ヒメタニシを多数確認。



No. 14

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・流れ込みの部分に外来種であるサカマキガイを多数確認。都度、駆除している。



No. 15

撮影日:2021/11/10

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・ナミテントウを確認。



No. 16

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

【シオカラトンボ】

卵期間: 1~2週間程度

幼虫期間: 2~8カ月(1年多世代)

成虫出現期: 5月~11月

生息環境

平地~丘陵地の周囲に樹林のある水田や湿地・池沼、ゆるやかな流れの溝川など



No. 17

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

【クロスジギンヤンマ】

幼虫期間: 1年程度(1年1世代)

幼虫越冬

成虫出現期: 4月~8月

生息環境

平地~丘陵地の、周囲に樹林のある池沼。

近縁種のギンヤンマが大きめの開放的な池を好むのに対して、小規模な浮葉植物の繁茂する池を好む。



No. 18

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

イシビル的一种を確認。5月より個体数が減少していた。



No. 19

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・重点対策外来種に指定されているメリケンガヤツリを確認。
導入した土壤に混ざっていたと考えられる。都度、駆除を行った。



No. 20

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・シャジクモを確認。浅場にて小さくなった個体が点々と生えていた。



No. 21

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・ヒルムシロ属の一種の花を確認。



No. 22

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・ミゾソバが開花していた。



No. 23

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・池付近のコムラサキが実をつけていた。



No. 24

撮影日: 2021/11/10

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・池周囲のマユミの実を確認した。

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注				
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020年度	2021年度 5/18	2021年度 8/24	2021年度 11/10
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	CR			○	○			
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN				○			
	アカガエル類	-	放流							○		
	ヒキガエル類の幼生	-	放流							○		
	ニホンアマガエル	SR	導入			VU		○				
爬虫類	ヒバカリ	SR	自然			VU					△	
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN		品種メダカとの交雑の可能性あり。	○	○	-	-	-
	品種メダカ	外	遺棄・放流			○	体色が黒色、白色のメダカを複数確認。			○	○	○
貝類	ヒメタニシ	A	導入				4個体確認	○	○	○	○	○
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○				
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	流れ込み部に多数確認。駆除行っている。	○	○	○	○	○
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				成体を多数確認した。	○	○		○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○			
	ホルバートケシカタビロアメンボ	A	自然飛来				1個体を確認		○			○
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○			
	ナミテントウ	B	自然飛来				1個体を確認		○			○
	マメコガネ	B	自然飛来						○			
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○			
	ヒメスズメバチ	A	自然飛来								○	
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来				幼虫（終齢幼虫）を5個体確認。	○	○	○	○	○
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○				
	クロイトンボ	A	自然飛来					○	○	○		
	イトトンボ科の幼虫	A	自然飛来				若齢幼虫を2個体確認。種同定できず					○
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来					○	○	○	○	
	シオカラトンボ	A	自然飛来				幼虫（終齢幼虫）を2個体確認。		○			○
	トンボ科の幼虫	A	自然飛来				幼虫（若齢幼虫）を7個体確認。		○			○
	イチモンジセセリ	A	自然飛来								○	
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○			
	コカゲロウ属の一種	B	自然飛来						○			
	ユスリカ科の一種	B	自然飛来						○	○		
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来					○	○	○		
その他動物	イシビル科の一種	B	非意図的導入				1個体を確認。		○	○	○	○
植物	メリケンガヤツリ	外	非意図的導入			○	池周囲で数株確認。駆除を行った。				○	○
	セキショウ	A	導入				浅瀬と深場の境にて群生	○	○	○	○	○
	コナギ	A	導入					○			○	
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入				花と殖芽が確認できた。	○	○	○	○	○
	ウキヤガラ	SR or R	導入			VU		○	○			
	ミゾソバ	A	導入				開花を確認した。	○	○	○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○				
	ウキクサ	B	土壌由来					○	○		○	
	シャジクモ	SR	発芽	VU	VU（本土部）		浅瀬で多数確認	○	○	○	○	○
	ヘビイチゴ	B	土壌由来						○	○	○	
	ダンドボロギク	外	自然飛来			○					○	
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○	池の外縁部に数株確認。除草を行った。	○	○		○	○
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○		○				

※確認記録 ○:調査で確認、△:聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ、アズマヒキガエル
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	ニホンアナグマ、アオダイショウ、ヤマトタムシ
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンパバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培も含めずで絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの